

氏名(会員番号)	荏本孝久	参加回数	5回目
参加した場所 (番号に○印)	2. 神戸市役所・防災展示室 3. 人と防災未来センター 講演 ④ 兵庫県立大学 ⑤ 1. 17慰霊式典 ⑥ 震災保管庫 ⑦ 津波防災センター その他		
印象に残ったこと	1. 神戸の震災から 23 年目の慰霊式に3年ぶりに参加できました。毎年大学の入試業務と重なって、ここ3年程参加できない状況が続きましたが、今回は直前まで微妙な状況でしたが、参加できることになり、少し遅れて「兵庫県立大学」から参加することができました。 2. 「兵庫県立大学」の青田教授のご講演では、新たに新設された大学院研究科の特異な専門分野の文科省への設置申請の苦労談や設置の重要性などについて、熱い熱意をお聞きできました。災害大国の我が国においては社会的に極めて大きな意義ある研究分野だと、お聞きしながら感じました。大震災を経験した神戸・阪神地域ならではの取組に、今後の発展を大いに願いたいと思うし、連携できるように必要な場合には支援・協力できればと感じました。 3. 「1. 17慰霊式典」では、年と共に参加者の数が減少してきた傾向を感じましたが、震災後 23 年経過しても、なお式典が続いていることに感銘しました。特に、今年は式典の中での神戸市長のお話と被災者である才さんのお話をじっくり聞くことができ、特に才さんのお話には感銘しました。 4. 「震災保管庫」は、2 度目の訪問でしたが、何度見ても迫力のある展示物に圧倒されてしまいます。この展示は、広く国民が一度は見学すべきもので、不遜ながら私は、初めて見学した時から「国宝級の資料」と感じざるを得ませんでした。 5. 「津波防災センター」は和歌山県湯浅町にある、浜口吾稜公の遺構となっている資料館ですが、昨年 11 月 15 日が「世界津波の日」と制定され、その偉大は功績が世界に認められて、さらに貴重なモニュメントになっていることに感激しました。1884 年安政南海地震で被災した後も、地域を守る、住民を守るために資材を投げ打って防潮堤を建造した遺構も見学して、その偉大さを実感することができました。		
今回参加した感想	3 年ぶりに参加できて、感激しております。震災当時の面影は、もう殆ど残っていないように思いますが、被災した方々、家族・知人を失った方々や震災を重く受け止めている方々の心の内は、今も変わっていないと強く感じます。これは、毎年のように参列されている人々には当然のことのように思いますが、やはり年月の経過とともに高齢の方々が多くなっているように感じました。同時に参加者も年々少なくなっているようにも思います。3. 11 震災や熊本震災も新たに発生しましたが、神戸の震災は、神戸の震災として長く記憶に止め、慰霊の式典が続くことを願いたいと感じています。 慰霊日は、雨天でしたが暖かい日でした。その後、和歌山県への移動は、曇り		

	でしたが、宿泊先の「湯浅城」は国民宿舎でもあり、素晴らしい宿でした。まるで城主になったようで、温泉も素晴らしく、参加した皆さま方と楽しい会話の基で、大変リラックスすることができました。翌日は、晴天に恵まれ、気持ちの良い気候の中、湯浅の町をレンタル自転車(無料)で市内を回り、津波防災センターを中心に散策することができました。市内の広八幡神社では神職の宮司とお話ができ、本年 10 月に開催予定の稲村の火の行列の神事についてお聞きすることができ、時間があれば再び伺って、見てみたいとの希望が湧いてきております。
その他	今回のイベントに参加して、改めて防災・減災活動には、体験という減多には経験できないことを心と体で受け止めないと、なかなか自分の物、地域の物として受け入れるのは難しいと感じております。 ですから、今回のように自分では体験していないけれども、被災地へ伺って、少しでも受け取れることや体験談などの触れる経験をこれからも重ねて行きたいと思います。そういう意味で、「だるまの被災地探訪」の企画は続けて欲しいと思っています。

<報告書について>

1. 提出:1 月 30 日(月)までに池田さま宛提出をお願いします。 mitsu.nakajima@coral.ocn.ne.jp
2. 提出いただいた資料は取りまとめの上、報告・保存資料といたします。